

2019 年度交換留学(派遣) 報告書 ②

所属学科／研究科	総合社会学科
留学先国	韓国
留学先協定校	韓瑞大学校
留学期間	約 10 ヶ月
留学時学年	2 回生
留学先での所属	日本学科
渡航日／発着便	2019 年 2 月 25 日 関空 → 仁川
帰国日／発着便	2019 年 12 月 29 日 仁川 → 関空
留学先で取得した単位数合計	18 単位
本学で認定された単位数合計 (※30 単位上限)	18 単位 (韓国語応用 6 単位 + 自由選択科目 12 単位)
海外留学助成金	23 万円 (前期 13 万円 + 後期 10 万円) 助成
検定試験合格者助成金	—
備考	—

留学成果レポート

■なぜ、派遣先国・派遣先大学への留学を希望しましたか？

韓瑞大学校には、日本学科があり、日本語が話せる学生や日本について興味を持っている学生が多いと聞きました。ですので、私は韓国語ができなかったことから、そこで友達をつくり、韓国語も勉強しつつ、自分の学びたいことも学べると思い希望しました。

■派遣先大学で、どのようなことを学習・研究しましたか？

語学堂では韓国語の基礎、文法、単語の学習をしました。学科の授業では、日本と韓国の衣食住や文化の違いを調べ、毎回授業の最後にグループ発表をしていました。また、日本語作文という授業では、韓国語で書かれた作文を日本語で書く授業もありました。外国人学生用の授業では、韓国の童話や昔話、また韓国の現代社会を学ぶ授業もありました。

■留学するにあたっての目標は何でしたか？ 目標は達成できましたか？

私は留学するにあたって、日本と韓国の関係を学びたいと思っていました。私は日本の情報サイト、日本で報じられるニュース等で韓国の情報を得ることしかなく、韓国に対して悪いイメージを持っていました。私は日韓関係がなぜ悪いのか、なぜ韓国は日本が嫌いなのか、ずっと疑問を持っていました。ですので、留学期間中に日韓関係について韓国側から見る、知る、学ぶ、そして日本についても様々なことを学びたいと思っていました。どのようなことがあったのか、大まかな出来事は知ることができました。ただ達成したかというはまだ達成していません。私が知っていた韓国に対しての情報や内容もありましたが、むしろ知らなかったことの方が多かったです。もちろん、歴史的出来事には多少の誤差や大きく書かれることなどはあります。私は古い日韓関係を知っていく中で、韓国のつらい過去や残虐的内容等、私の知らなかったことを知りました。留学が終わった後でも勉強し、学んでいきたいと思っています。

■派遣先国・大学で、どのような国際交流を行い、どのような活動をしましたか？

大学では、授業外の活動で日韓の異文化を勉強するグループ学習をしました。活動内容は、日本と韓国の昔話の比較や、お城の構造の違い等、毎週木曜日、自分たちでテーマを決め、日本人学生、韓国人学生、互いに発表し合い、授業では学ばないことを学びました。また、様々な国籍の方と交流し、自分たちの母国の料理を作ってパーティーを行ったり、目で見ただけ、話すだけの交流ではなく、実際に体験する国際交流をして親睦を深めました。

■留学中、どんな困難や苦労がありましたか？またその困難をどう乗り越えましたか？

留学中様々な困難や苦労がありました。はじめはどうすることもできず、毎日毎日泣く日々が続きました。その時は、周りの人に相談したり、自分が思う解決方法や環境変化などについて話し、改善してもらったり、辛いときは友達がいつもそばにいてくれました。私は辛くてもあきらめず、自分の考えや意見をストレートに伝えることの大切さ、重要さを知りました。

■留学前と比べて「学習面」で成長できたと思う点はなんですか？

留学前と比べて、集中して自分の学びたいことが学べたと思います。私は韓国語がわからず、1学期のテスト問題の回答があまり書けませんでした。その時に、悔しい思いをして2学期は頑張ろうと思いました。1学期とは違い、2学期は授業選択の時に、外国人学生が受講する授業をとりました。周りの学生たちは私よりも韓国語がすごく上手で、授業を取り消そうと思いました。しかし、とると決めたからには頑張らないといけないと思い、授業で学ぶ範囲の予習、教科書の内容理解、わからない単語、文法の勉強をしっかりとしました。また、授業でわからないところがあったら、クラスの子に聞いたり、友達に教わったりもしました。結果、2学期は1学期よりも良い成績が取れたと思います。また、授業で学んだ文法、単語を日常でも積極的に使うよう努力し、留学初期の頃よりも、語学が成長していることに先輩や友達も驚いていました。

■留学前と比べて「人物面」で成長できたと思う点はなんですか？

留学前と比べて、様々な面が変わったと感じています。留学中、韓国人学生はもちろん、その他の国から来た多国籍な学生達と関わって、自分が今まで持っていた物事に対する考え方については変わった点だと思っています。日本の常識だったものが、海外では非常識になるということも知りました。そして、物事について自分の言いたいことをはっきり言うようになったと思います。「日本人は、はい、いいえをはっきり言わない曖昧な返事をする」と外国人留学生の友達に怒られました。ですので、留学生活中は自分の意志をはっきりと表していました。また、一番自分の中で大きく成長した部分は、自分に自信がついた点だと思っています。日本にいた時よりも、自分ならできると思う範囲・可能性が広がったと思います。くじける時も諦めたいと思った時もありました。その中で、最後まで諦めず頑張ることの大切さ、挑戦し続けることの大切さを学びました。この留学期間の経験が積み重なり、自分に自信を持つことができました。

■今後、この留学経験をどう生かしていこうと考えていますか？

この留学で、勉強面だけでなく、様々なことが学べたと思います。留学前は韓国という国に対して大きく偏った偏見やあまり良いイメージを持っていませんでした。しかし、実際に行くと私が持っていた変な固定概念は崩されました。韓国の衣食住について、文化や歴史、私の学びたかった日本と韓国の古い歴史について学ぶことができました。私が多くのことを学ぶことができたのは、韓国で出会った優しい人たちのおかげです。私の学びたいこと、知りたいこと、やりたいことについて、いつも情報をくれたり、一緒に博物館や記念館に行き、ガイドしてくれたり本当に感謝の気持ちしかありません。また、韓国のおじさんやおばさんも、その場所その場所での美味しいものや、迷子になったら道やバスの乗り方なども教えてくれました。私は留学期間中、韓国の方々から優しさと思いやりをたくさんいただきました。私は、偏った偏見や変な固定概念はよくないと思いました。これからも自分の学びたいことに対して学び、物事を幅広く見ていきたいと思いました。

■ 留学は楽しかったですか？ 留学して良かったですか？ 留学を終えての感想を

留学は楽しかったです。はじめは自分が想像していた留学生活と異なり、辛い日々が続きましたが、自分から行動することの大切さ、判断力、決断力の重要性を知りました。あと、自分是可以する！！という自信が大切ということも知りました。自分から行動することで、改善されたり、また様々な国の友達ができ、辛い気持ちはなくなり、毎日明るく笑顔で過ごすことができました。留学期間中は楽しいことも、辛いこともありました。環境が合わず泣くことも、やめたいという気持ちが強かった頃もありました。しかし、自分から行動すると助けてくれる人、心配してくれる人、多くの人の支えがあり、留学生生活を無事終えることができました。私にとって留学期間は人生の中で貴重な体験ができた期間だと思います。そして、日本にいた時よりも、自分自身に対して自信が付き、留学での経験が自分の人生にプラスとなっていることを実感しています。

留学アドバイス

■ 韓国及び派遣先大学の印象は？

韓瑞大学校はとても田舎な場所にあります。はじめ行った時は驚きました。学校の敷地はとても広く、様々な学科があります。韓瑞大学校はとても学科が多く、学生たちの学びたいことを集中して学ぶことができる学校だなと思いました。

■ 留学して一番困った・大変だったことは？

私は留学がはじめての海外でした。韓国語も全く分からず大変でした。中でも一番大変だったのはご飯です。私は辛い物が苦手で、はじめの頃はすべての食べ物が辛くて食べるできませんでした。それを知った韓国人の友達たちが、注文の際に「辛くしないでください」と注文してくれ、食べることができました。今では辛い物が食べられるようになりました。

■ 留学中の楽しかった・嬉しかったできごとは？

留学期間中、嬉しかったことは語学堂のクラスメイトや、学科の先輩、友達が私の誕生日を祝ってくれたことはとても嬉しかったです。サプライズでケーキを用意してくれたり、韓国スタイルで祝ってくれたので本当に嬉しく感動しました。

■ 留学先に持ってきて良かった・持ってくれば良かったと思ったものは？

日本食や日本のお菓子。
日本食はレトルトのものやお茶漬け、ふりかけ、納豆などを持っていき、ルームメイトの子と一緒に食べたりしました。日本のお菓子はファミリーパックの小分けするものを持っていき、語学堂の友達たちと各国のお菓子交換をして食べ合い交流しました。少しでも日本について知ってもらえると思い持っていきました。

■ 留学中のお金の管理はどうしていましたか？

私は日本から仕送りせずに、一時帰国した際に関西国際空港で少しのウォンと交換して、仁川国際空港で換金両替をしました。お金の管理は、留学始めのオリエンテーションで現地の銀行カードを作ります。韓瑞大学校の学生証と銀行カードが一体になっていたのも、とても便利でした。あと、日本のクレジットカードも使っていました。いくつものカードを使うと海外保険(カード付帯の保険)がつくので、1つに決めて使っていました。

■派遣先大学での生活環境はどうでしたか？

寮は日本人留学生 2 人、韓国学生 2 人の 4 人部屋でした。ルームメイトは前期は先輩、後期は後輩でした。前期も後期もルームメイトの子はとても優しく、面白く、毎日楽しかったです。食事は寮で食べたり、学校の前にあるお店に食べに行ったり、友達が料理を作り一緒に食べたり、配達したりしていました。寮での生活ははじめは不安でしたが本当に毎日が楽しかったです。

■派遣先大学での課外活動はどんなものがありましたか？

韓瑞大学校はサークル活動がたくさんありました。私は、楽器を演奏する活動に入りましたが、あまり活動しませんでした。友達が活動しているダンスサークルの発表会に招待され見に行ったりしました。とても、迫力のあるダンスを踊っていて、友達の意外な一面を知ることができました。本当に、韓瑞大学校にはサークルが多く、音楽、放送、ダンス、バスケット、絵など様々なジャンルのサークル活動がありました。

■どのような国籍の留学生がいましたか？

様々な国から来た留学生が多くいます。正規生として大学に入学している留学生もいます。中国、台湾、モンゴル、ベトナム、バングラデシュなど多国籍でした。日本人は私を除き、9 人いました。

■渡航前にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

なぜ留学するのか、自分の目標や目的を明確に持つことだと思います。留学したいと思うきっかけは様々だと思います。留学への明確な目標や目的を持つことで、自分自身にとって意味のある留学経験になるのではないかと思います。あと、留学中に楽しみたいこと、行ってみたいところ、食べてみたいものなども考えてみると思います。渡航前に考えておくことで、充実した留学生在活を送れると思います。

■渡航後にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

積極的に何事も参加することです。周りの人たちが参加しないから私も参加しないという考えは、自分の留学生在活を台無しにしていると思います。周りに合わせても何も得るものではありません。参加して、その中で自分ができなかつたり、助けが必要な時は、周りの人が助けてくれます。多くの人と交流することで、様々なことを学ぶ良いチャンスになります。そこから関係が生まれ、人脈が作れ、多くの人と交流できます。周りの人たちに波長を合わさず、自分がチャレンジしたいことはどんどんチャレンジし、自分で自分の世界を作っていくことがとても重要だと私は思います。

■今後の派遣留学生にむけてアドバイスを

私は留学をしてよかったと思います。正直、辛く帰りたい時もありました。韓国語が分からず泣く日もありました。韓国語を一人で勉強していると、わからない単語・文法がありました。その時は、友達に聞いたり、カフェや図書館と一緒に勉強したりしました。韓国の友達が、私にわかりやすく説明や解説、また文法を見て間違っていないか確認などしてくれました。韓国語が分からないから諦めるのではなく、諦めずに毎日自主勉強や友達と勉強をしました。留学期間中様々な困難や辛いことがありました。しかし、どんなに辛いことがあっても、すぐに諦めるのではなく頑張ることで、応援してくれる人、支えてくれる人がいることを知りました。そして、諦めず困難や辛いことを乗り越えていく大切さも学びました。自分から行動することが留学では大切です。また何事にもチャレンジし続け、新たな自分を見つけ、充実した留学生在活を送ってほしいです。

1. 何故留学をしようと思い、そして決意したのか

私は高校生の頃、担任の先生から語学留学に行った時の話を聞き、その話の中で「留学は自分が今まで持っていた価値観や視野が大きく変わる。それと同時に、その国で体験したこと、学んだことすべてが、今後の自分の人生に影響していく」という言葉を聞いて、留学に興味を持ちました。そして、大学に入学して留学したいと思っていました。そして、交換留学制度があると知り、はじめは悩みましたが、夏休みに参加した東アジアサマースクールプログラムで他国の方々々と2週間生活を共にして、外から見る日本、日本との文化の相違点などを知っていくうちに、日本との文化の違いや海外から見た日本等、海外への関心・興味が強くなり、もっと知りたい！学びたい！と、思い留学を決断しました。

2. 留学中の出来事、貴重な体験・経験

留学中様々な出来事がありました。中でも強く印象に残っていることが2つあります。

1つは、留学に来たはじめの頃です。私にとって、留学が初めての海外でした。そして、韓国語も分かりませんでした。初めて、ソウルに行ったときに右も左も分からず地下鉄で迷子になってしまい、不安ながらもおじさんに下手な韓国語で道を聞くと、乗り換えをしないと目的地まで行くことはできないと言われ、乗り換え?!と思い、さらに不安になりました。すると、おじさんが「この駅だよ。」と教えてくれ、わざわざ乗り換えの電車に乗るまで見送ってくれました。2つ目は、空港に行きたいと思っていたのですが、電車を乗り間違え、慌てて降りた駅が無人駅で次の電車が来るまでかなりの時間があり、周りを見渡してもタクシーも無く、散歩中のおばさんに声をかけ、「タクシーを呼びたいのですが、方法がわかりません」と伝えると、タクシーを呼んでくれました。そして、運転手さんに目的地と、フライトまで時間がないと伝えてくれました。そして、無事に空港に着き、フライトの時間にも間に合うことが出来ました。

3. 留学を終えて、自身が成長したこと、留学して良かったこと

留学期間中、留学で得たものは多くあります。自分自身あまりよく分かりませんが、成長した部分も多くあると思います。留学当初は、正直、精神的にも肉体的にもきつかったです。留学が人生初めての外国で、本当に不安しかありませんでした。もう、辞めたい、帰りたいと毎日思っていました。しかし、そんな中でも私を支えてくれる人たちのおかげで、頑張って笑顔で留学を終えることが出来ました。本当に諦めたい時もありましたが、つらい中でもやりきる持続力や、行動力がついたと思います。また、自分の意見や気持ちを伝えること、自分が変わらないと、周りも変わらないこと。変わるのを待つのではなく、自分が変えていかなければならないということも知りました。留学を終えた今では、また韓国に行きたい気持ちでいっぱいです。留学期間中つらいこともありましたが、周りの人達に恵まれて、明るく楽しい毎日が過ごせたと思います。

4. 交換留学制度を利用して良かったこと

交換留学制度を利用して良かったことは、奈良大学を通じて協定校へ留学に行くので、もし現地では何かがあればサポートがあるので安心して留学に行くことが出来ました。多分、交換留学ではなく、普通に留学に行くと、留学費用も高く、かなり不安な状態で行き、不安なまま留学生生活を過ごしたのかなと思います。大学のサポートがあるのと、ないのでは全然違うと思います。

5. この留学をどう生かしていこうと思っているか

私は留学を、自分の夢である警察官の仕事に生かしたいと思っています。

留学の始めの頃は、私自身、何事にも固定概念が多くあったと思います。何事も日本が基準という考えがありました。しかし、留学生生活を過ごす中で、韓国の方だけでなく、様々な国から来た人たちと関わり、それぞれの国の文化や、習慣、価値観等を知ることができました。日本では当たり前な考えや行動は、海外では違うということを知りました。はじめに持っていた私の固定概念は崩され、幅広く物事を見ることの大切さ、その時その時の臨機応変さが身についたと思います。留学をして、楽しかったこともありますが、辛かったこともあります。中でも、言葉の壁・文化の壁が辛かったです。韓国語を勉強しても、うまく使えず、自分の思っていることが相手に通じない、言葉が理解できない、また日本とは違う文化に馴染むことが出来ないことも辛かったです。

グローバル化が進む日本では、日本に住む多くの外国人の方が言葉の壁や文化の違いに困っていると思います。私は、警察官になったら、地域の人々の安心・安全を守ると同時に、日本を訪れた海外の方も助ける警察官になりたいと思いました。韓国語の勉強もしつつ、英語の勉強も頑張り、留学期間中で学んだことを多くの場面で、役立てられたらいいなと思います。